

交通死亡事故

本年1月より五名の尊い命が!!

南入曽地内の県道で起きた交通事故現場

6月1日現在 県内ワースト11位



狭山市では、交通死亡事故が急増しています。本年の1月から現在までに5名の尊い命が奪われるという異常事態となっています。

交通事故の被害者にも加害者にもならないために、交通ルールを守り、思いやりのある行動をとることはもちろんのこと、危険を予測して行動しましょう。

また、「交通安全は家庭から」家族のみんなが事故に遭わないためにも家庭で交通安全について話し合いましょう。

狭山市内では、1月から5月までの5か月間で5件の交通死亡事故が発生しています。これらの事故は、1月26日の夜間に加志志地内の路上で歩行者に乗用車が衝突し死亡させたのを始めとし、2月1日早朝には南入曽地内の県道で反対車線へはみ出した乗用車の運転者が死亡、2月26日根岸地内の国道407号で乗用車とワゴン車が衝突し、乗用車の同乗者が死亡しました。3月22日には稲荷山地内の路上で、横断中の自転車が普通貨物自動車と衝突し自転車の男性が死亡、5月2日には、上奥富地内の国道16号で、横断歩道を横断中の自転車に乗用車にはねられ死亡し

たものです。今年に入り6月1日現在で5名の方が亡くなられ昨年の同期に比べて1名の増となっています。昨年1月からの死亡事故13名の傾向を見ますと、自転車利用者の死亡が7名、高齢者(65才以上)の死亡が5名を数え、シートベルトを着用していれば死亡にいたらなかったと思われる事故も発生しています。

このため市では、①自転車による事故防止②高齢者と子どもによる事故防止③シートベルトの着用徹底の3つを事故防止の柱として取り組んでいきます。交通事故防止はみんなの願いです。歩行者も運転者もみんなルールを守りましょう。

重点

1

自転車による事故の防止 自転車もりっぱな車です、交通ルールを守りましょう

昨年1年間で県内では、1万人を超える自転車事故が発生しています。特に夜間における事故が多発しており、事故防止のうえから夜間は必ずライト(前照灯)をつけましょう。また、自転車のスポークに反射材をつけることで大きな効果をあげています。このため市では、反射材の取り付けをすすめていますので、活用してください。

夜間の自転車事故防止のために反射材をつけましょう



重点

2

高齢者および子どもによる事故防止

かけがえのない身を守るために

事故原因のワースト1位にあげられるのが、歩行中の飛び出しや横断歩道外の横断です。

交通安全は家庭からと言われています。交通安全ルールを守るよう家族で話し合いまししょう。また、学校や職

市町村交通事故死者数ワースト11位

順位	市町村名	本年	前年比
1	春日部市	9	+6
2	行田市	8	+8
2	熊谷市	8	+5
2	越谷市	8	+4
2	大宮市	8	-5
6	草加市	7	+5
6	所沢市	7	+1
8	浦和市	6	+4
8	川越市	6	+3
8	上尾市	6	+2
11	狭山市	5	+1

都道府県別交通事故死者数

順位	都道府県	本年	前年比
1	千葉県	216	+23
2	北海道	187	+7
3	茨城県	182	+21
4	神奈川県	174	+30
4	愛知県	174	+4
6	大阪府	163	-28
7	兵庫県	161	-31
8	東京都	159	-11
9	埼玉県	151	-2
10	福岡県	143	-10

重点

3

シートベルト着用徹底 シートベルト方式の導入

「面倒だから」「すぐ近くだから」という気持ちを捨て、必ず着用するよう習慣づけることが必要です。また、幼児などを同乗させる場合は体格にあったチャイルドシートを使用してください。

埼玉県では、7月より11月までの5か月間県内一斉92市町村を対象に「面倒だから」「すぐ近くだから」という気持ちを捨て、必ず着用するよう習慣づけることが必要です。また、幼児などを同乗させる場合は体格にあったチャイルドシートを使用してください。

シートベルトはあなたと心の命綱にシートベルトステッパアップ大作戦を実施します。これは、対象路線を設定し、事前着用率調査・広報活動指導取組み・着用率調査を1か月を単位に繰り返し行うものです。現在のシートベルト着用率は、60〜70%といわれていますが、身を守るための習慣づけとしてシートベルトの着用を心がけましょう。



周りに気をつけて乗ろうね！
母子交通安全教室の一場面



交通安全通問には、市長自ら交通事故防止を呼びかけました

問い合わせ

交通防災課

内線 223